

平成27年度から使用する広島市立小学校用教科書の採択について

教科〔音楽〕 種目〔音楽〕

1 本市の実態や児童の状況

- 本市では、音楽朝会や音楽鑑賞など、児童が音楽に親しむ機会を大切にしている学校が多い。また、「文化の祭典」や「こころの劇場」など、日頃の学習の成果を発表したり本物の舞台芸術に触れたりするなど、児童の音楽経験を豊かにする場に参加している学校も多い。しかしながら、一人一人の児童に目を向けると音楽経験の差は大きい。
- 児童は、音楽に対して意欲的に取り組むことができる。しかし、児童の経験の乏しさが「春の小川」や「こいのぼり」などの共通教材に表現されている情景を思い浮かべることができず、感じたことを言葉で表すなど、豊かに表現することができにくい課題につながっている。また、日常生活において伝統的な音楽に親しむ環境に置かれていない児童も多くいる。さらに、音楽活動の基礎的な能力に個人差があり、特に器楽の演奏においてその傾向がみられる。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
<基礎・基本の定着>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 題材の目標の示し方</li> <li>○ 共通事項を定着させるための工夫</li> <li>○ 技能を定着させるための工夫</li> <li>○ 我が国の音楽に関する内容の扱い</li> </ul>
<学習方法の工夫>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 音楽づくりの学習の扱い</li> <li>○ 器楽教材の扱い</li> </ul>
<内容の構成・配列・分量>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各領域の構成、分量</li> </ul>
<内容の表現・表記>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 表現と学習内容との適切な関連付け</li> <li>○ 配色や文字の大きさ等の工夫</li> </ul>
<言語活動の充実>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 鑑賞における言語活動の工夫</li> </ul>

### 3 各教科書の特徴及び意見

#### 1 基礎・基本の定着

##### (1) 題材の目標の示し方

- 目標は、左ページに横書きで示している。
- 目標は、キーワードの色を変えて示している。
- 目次は、題材名と同じ色で目標を示している。
- 目標につながる活動のポイントをマークと枠で囲んで示している。
- ページの右上に、リボン枠の形で題材名を示している。

##### (2) 共通事項を定着させるための工夫

- (1) アは、「音楽のもと」としてページ右上の題材名の下にマークで示している。
- (1) イの音符や記号は、その教材で扱うものを右端に示している。
- 全学年に、「音楽のもとまとめ」があり、2年から6年では、音符や記号などを一覧にして巻末に示している。

##### (3) 技能を定着させるための工夫

- 鍵盤ハーモニカは、1年から3年で扱っている。
- 2年では、鍵盤ハーモニカで「指かえ」「指くぐり」「指またぎ」を使う曲を1曲扱い、ひき方を写真で示している。3年では復習のため、オルガンで「指くぐり」と「指またぎ」の2つを同時に使う曲を1曲扱い、写真で示している。
- 1年では、鍵盤ハーモニカの実物大の写真を3ページにわたって示している。
- 3年のリコーダーの導入では、リコーダーのつくりと構え方、穴のふさぎ方を写真で示している。
- リコーダーの運指は、ふき口を下向きにしたリコーダーの絵で示している。
- リコーダーのタンギングは、「トゥ」「ル」、4年では、高い音を「ティ」と発音するように説明している。
- リコーダーの息の入れ方については、大きなしゃぼん玉をつくる時のような息でふくよう説明している。

##### (4) 我が国の音楽に関する内容の扱い

- 全学年で鑑賞曲と歌唱教材を扱い、2、4、5、6年では、和楽器も扱うように示している。

#### 2 学習方法の工夫

##### (1) 音楽づくりの学習の扱い

- 「音のスケッチ」として、全学年でリズムづくり、旋律づくりの活動を設定し、1、2年ではイメージを音楽で表す活動が設定されている。
- 「音のスケッチ」では、友達の音とつなげたり重ねたりするなど、かかわりを促す活動を設定している。
- 旋律づくりなどでは、つくった旋律を書き込めるものもある。

##### (2) 器楽教材の扱い

- 学年が上がるにつれ、鍵盤ハーモニカ、打楽器に加え、リコーダー、オルガンの低音、木琴、鉄琴などパート数が増えた曲を取り上げている。

#### 3 内容の構成・配列・分量

##### (1) 各領域の構成・分量

- 各学年の題材数は、次のとおりである。  
1年…7、2年…9、3年…8、4年…8、5年…7、6年…7
- 各学年に「基礎となる学習」「学習の広がり」の二つの題材があり、加えて選択的な内容を掲載している。
- 学年にふさわしい歌唱曲を巻末に取り上げている。
- 2年から合唱、5年から三部合唱を取り入れている。
- 歌唱、器楽、鑑賞、音楽づくりの教材をまんべんなく配列している。

#### 4 内容の表現・表記

##### (1) 表現と学習内容との適切な関連付け

- 国歌は2ページで扱っており、歌詞と楽譜を示しており、さらに細石の写真や歌詞の大意の説明を示している。
- 共通教材は見開きで、縦書きの歌詞と楽譜で示している。大きなイラストもしくは写真でページ全体が一枚の写真のようなレイアウトになっている。すべての曲に活動のポイントを示している。
- 1、2、3年の表紙裏には、見開きの目次がある。
- 4、5、6年の表紙裏には、見開きで、活躍中の演奏家からのメッセージを掲載している。
- 4、5、6年では、鑑賞の資料として、両開きの大きな写真を掲載している。

##### (2) 配色や文字の大きさ等の工夫

- 曲名は薄茶色、歌詞は黒色を中心に書かれている。背景は、薄い色を使っている。

#### 5 言語活動の充実

##### (1) 鑑賞における言語活動の工夫

- 鑑賞する際のポイントを問いかける記述があり、気付いたことや感じ取ったことを友達に伝えようと促す文がある。
- 3年からは、気付きや感じ取ったことを、教科書に直接書き込むことのできる欄を設けている。
- 2年以上の巻末には、「音楽を表すいろいろな言葉」のページが設けられ、さらに言葉を見つけた場合は、新たに記入できる欄がある。

#### 意見

教育出版の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

##### (理由)

教育出版の教科書の特徴は、児童の生活経験の乏しさから、共通教材に表現されている情景を思い浮かべることができず、感じたことを言葉で表すなど豊かに表現することができにくく、音楽活動の基礎的な能力、特に器楽の演奏に課題がある本市児童の状況に対応することができるものである。

1 基礎・基本の定着

(1) 題材の目標の示し方

- 目標は、題材の始めのページ左側に大きく示し、右上にも同じ色で示している。
- 目標は、全て黒色で示されている。
- 目次は、教材のページと同じ色の枠で題材の目標を示している。
- 目標につながる活動のポイントを枠で囲んで示している。

(2) 共通事項を定着させるための工夫

- (1) アは、「ふりかえりのページ」として巻末にその学年で学ぶものについてまとめて示している。
- (1) イの音符や記号は、「新しく覚えること」とし、枠で囲んで示しており、書く練習をする欄がある。
- 3年から6年では、共通事項を一覧にして巻末に示している。

(3) 技能を定着させるための工夫

- 鍵盤ハーモニカは1年から3年で扱っている。
- 2年では、鍵盤ハーモニカで「指かえ」を使う曲を1曲扱い、ひき方を写真で示している。3年では、「指くぐり」と「指またぎ」を使う曲を1曲扱い、ひき方を写真で示している。
- 3年のリコーダーの導入では、構え方、穴のふさぎ方を写真で示している。
- リコーダーの運指は、ふき口を下向きにしたリコーダーの絵で示している。
- 「フー」と「トゥ」を比較してタンギングを習得させている。4年では、「ティ」と発音するように説明している。

(4) 我が国の音楽に関する内容の扱い

- 全学年で鑑賞曲と歌唱教材を扱っており、3、4、5年では、和楽器も扱うように示している。

2 学習方法の工夫

(1) 音楽づくりの学習の扱い

- 「音楽づくり」として、全学年でリズムづくり、旋律づくりの活動が設定され、1年～3年ではイメージを音楽で表す活動が設定されている。
- 「音楽づくり」などでは、「友達とリレーしよう」など、かかわりを促す活動がある。
- 旋律づくりなど、つくった旋律を書き込めるようになっているものもある。

(2) 器楽教材の扱い

- 学年が上がるにつれ、鍵盤ハーモニカ、打楽器に加え、リコーダー、オルガンの低音、木琴、鉄琴などパート数が増えた曲を取り上げている。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 各領域の構成、分量

- 各学年の題材数は、次のとおりである。  
1年…8、2年…8、3年…8、4年…8、5年…7、6年…7
- 学年にふさわしい歌唱曲を巻末に取り上げている。
- 3年から合唱、5年から三部合唱を取り入れている。
- 歌唱、器楽、鑑賞、音楽づくりの教材をまんべんなく配列している。

4 内容の表現・表記

(1) 表現と学習内容との適切な関連付け

- 国歌は1ページで扱っており、歌詞と楽譜を示している。
- 共通教材は見開きで、縦書きの歌詞と楽譜で示している。大きなイラストもしくは写真がある。すべての曲に歌の説明を示している。
- 1、2年の表紙裏には、見開きの目次がある。
- 3、4、5、6年の表紙裏には、見開きの「音楽プリズム」として、自然や演奏の様子の写真に掲載している。

(2) 配色や文字の大きさ等の工夫

- 曲名、歌詞は黒色を中心に書かれている。背景は、白色を中心に薄い色を使っている。

5 言語活動の充実

(1) 鑑賞における言語活動の工夫

- 鑑賞する際のポイントや児童の発言の例を示しており、気付いたことや感じ取ったことを友達に伝えようと促す文がある。
- 3年と4年では、気付いたことや感じ取ったことを教科書に直接書き込むことのできる欄を設けている。

意見

教育芸術社の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

教育芸術社の教科書の特徴は、感じたことを豊かに表現することができにくい本市児童の実態に対応することができるものである。

平成27年度から使用する広島市立小学校用教科書の採択について

教科〔 図画工作 〕 種目〔 図画工作 〕

1 本市の実態や児童の状況

- 本市には、美術館を有する旧市街地と、新たに開発された住宅地や商業地、山林を主体とした自然豊かな地域などがあり、児童を取り巻く学習環境は様々である。学校では、それぞれの環境を生かしながら授業づくりに取り組んでいる。
- 本市の児童は、全体的に新たな活動への興味・関心が旺盛で、素直に感じ取り自由に発想している傾向があることがうかがえる。反面、活動への見通しがもてず、計画的に粘り強く表現活動に取り組めないこと、生活経験の不足から図画工作に苦手意識をもっていることなどの課題がみられる。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
<基礎・基本の定着>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 題材の目標の示し方</li> <li>○ 材料・用具の取り扱いと表現方法の紹介</li> <li>○ 伝統と文化に関する内容の扱い</li> </ul>
<学習方法の工夫>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 興味・関心を高めるための工夫</li> <li>○ 活動の流れやポイントの示し方</li> </ul>
<内容の構成・配列・分量>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 題材の配列や分量</li> </ul>
<内容の表現・表記>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 活動や作品の解説の仕方</li> <li>○ 配色や文字の大きさ等の工夫</li> </ul>
<言語活動の充実>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 鑑賞における言語活動の工夫</li> </ul>

3 各教科書の特徴及び意見

1 基礎・基本の定着

(1) 題材の目標の示し方

○ 最も大切にしたい学習のめあてを1つの視点で、マークと文でページ上部に示している。

(2) 材料・用具の取扱いと表現方法の紹介

○ 巻末2～4ページで材料・用具の扱い方について掲載している。その学年で初めて扱うものだけでなく、以前扱ったものについてのコーナーも設けている。

○ 各題材で、材料・用具の解説や活動のヒントや安全面で配慮すべきことを、灰色や黄色の丸囲みにより示している。必要に応じて、用具の詳しい使い方が参照できるよう、ページ下部に巻末に導くマークを付けている。

○ 各題材の材料・用具については、目次のページに示している。低学年で絵の具を扱う題材については、共同で使う絵具について、題材のページに説明によって示している。

(3) 伝統と文化に関する内容の扱い

○ 巻頭に見開きで、テーマを決めて有名な作家や児童の作品を紹介しており、作家の夢や作品を、思いと共に紹介している。

○ 日本の伝統文化にかかわる工芸品や作品を、「みんなのギャラリー」の「伝統の技を学ぶ」コーナーで紹介している。

2 学習方法の工夫

(1) 興味・関心を高めるための工夫

○ 材料や用具、活動がイメージしやすい題材名となっている。

○ 題材名は、題材や活動に合わせて、字体・色・デザインを変えている。

○ リード文を、児童が発する言葉や授業の導入に使いやすい言葉で示している。

○ 写真は、授業の活動の様子や、様々な児童の作品が掲載されている。また、児童の声吹き出しで掲載されている箇所もある。

○ イメージが広がるように、いろいろな手法の作品例や展示例を紹介している。

○ 巻末付近の「みんなのギャラリー」では、「みんなでいっしょに」「教室を飛び出して」「伝統の技を学ぶ」の3つの視点で身の回りの「美」を紹介している。

(2) 活動の流れやポイントの示し方

○ 各題材で、活動のめあてや振り返りが示してある。「考えを広げて」のコーナーでは、発展的な活動を紹介している。

○ 題材の最後に「ふり返って話し合おう」という自己評価コーナーを掲載している。

○ 幾つかの活動例を、児童のつぶやきと共に図や写真で示している。つくり方や遊び方、振り返りのポイントも示してある。

○ 青い丸囲みで「～してみよう」と活動のヒントを掲載している。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 題材の配列や分量

○ 領域が連続している部分がある。一部選択扱いとなっている。

○ 各題材の多くが見開き2ページの扱いで掲載されているが、1ページ扱いのものもある。

○ 各巻45～47ページである。題材数は以下の通りである。 <1・2年 上>造形遊び：4、絵：10、立体：2、工作：7、鑑賞：3 <1・2年 下>造形遊び：4、絵：10、立体：2、工作：6、鑑賞：2 <3・4年 上>造形遊び：3、絵：9、立体：2、工作：8、鑑賞：4 <3・4年 下>造形遊び：4、絵：8、立体：2、工作：7、鑑賞：2 <5・6年 上>造形遊び：2、絵：7、立体：2、工作：8、鑑賞：4 <5・6年 下>造形遊び：2、絵：8、立体：2、工作：7、鑑賞：4 ※工作は一部選択となっている。

4 内容の表現・表記

(1) 活動や作品の解説の仕方

○ 写真の下に、「」を使って、児童の言葉で制作の意図や工夫などの解説を掲載している。

○ 多様な表し方や展示方法例を写真で幾つか示してある題材がある。

○ 冊子の大きさが従来のレターサイズからA4判となった。

○ 作品に吹き出しを配置し、作品の面白さを語らせている題材もある。

(2) 配色や文字の大きさ等の工夫

○ カラーユニバーサルデザインに配慮している。

5 言語活動の充実

(1) 鑑賞における言語活動の工夫

○ 吹き出しや活動の解説で、鑑賞の視点を示している。

○ 各題材に「ふり返って話し合おう」のコーナーを設け、振り返る観点を示している。

○ 巻頭の「ちいさなびじゅつかん」では、身近なものや作家の作品を掲載し、鑑賞活動の手立てとなる問いかけを示している。

○ カードを使った鑑賞方法を紹介している。

意見

開隆堂の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

開隆堂出版の教科書の特徴は、生活経験の不足から図画工作に苦手意識をもっているという本市児童の課題に対応するほか、活動への見通しがもてず、計画的に粘り強く表現活動に取り組めないという課題に対応することができるものである。

1 基礎・基本の定着

(1) 題材の目標の示し方

- 学習のめあてを4つの視点で、マークと文で題材名の横に示している。
- 特に重点化したいめあてには下線が引いている。

(2) 材料・用具の取扱いと表現方法の紹介

- 巻末6ページで材料・用具の取り扱い方について掲載している。初めて扱う用具や材料については、名前や取り扱い方を詳細に解説している。
- 各題材で、材料・用具の扱い方や表現方法の工夫について図や写真で解説している。特に注意が必要な場合、「気をつけよう」の見出しで用具の安全な取り扱い方を示している。
- 各題材のページ下部に、主に用いる用具をマークで示している。低学年では、共同で使う絵具について巻末や題材のページに説明やマークで示している。必要に応じて詳しい使い方が参照できるように、巻末に導く矢印も付けている。

(3) 伝統と文化に関する内容の扱い

- 巻頭や鑑賞のページでは、日本や海外のアーティストの作品を紹介している。また、児童の作品紹介では、海外の児童作品も掲載している。
- 日本の伝統文化にかかわる工芸品や作品を、主に中学年以降において多数紹介している。

2 学習方法の工夫

(1) 興味・関心を高めるための工夫

- 材料や活動がイメージしやすい題材名となっている。
- 題材名は、題材や活動に合わせて、字体・色・デザインを変えている。
- リード文を授業の導入時に使いやすい言葉で示している。
- 写真は、児童が授業中に生き生きと活動している様子や様々な作品を掲載している。
- イメージが広がるように、いろいろな手法の作品例や展示例を紹介している。
- 巻末付近の「ぞうけいのもり」では見開き1ページで、ジャンルを超えて身の回りの様々なものを紹介し、身近なものの造形的な面白さや美しさを紹介している。〔共通事項〕の形や色、素材の質感、イメージに注目させているものが多い。

(2) 活動の流れやポイントの示し方

- 題材の始めから片付けまでの流れや制作過程に沿うように写真や文、枠等を配置している。
- 題材の最後に、振り返りや自己評価に導く文を、男女児童の吹き出しにより示している。
- 工作の題材では、つくり方のヒントとなる説明が、絵や図を使って、枠内に示されている。
- 手元の様子など、活動のポイントとなる場面をアップにした写真が掲載されている。
- 「チーロさん」というキャラクターが活動のヒントや工夫の手立てを示している。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 題材の配列や分量

- 各領域が重ならないように配列してある。
- 各題材が見開き2ページの扱いで掲載されている。
- 各巻57ページで、題材数は以下の通りである。 <1・2年 上>造形遊び：4、絵：7、立体：4、工作：6、鑑賞：1 <1・2年 下>造形遊び：4、絵：7、立体：4、工作：5、鑑賞：2 <3・4年 上>造形遊び：4、絵：7、立体：4、工作：5、鑑賞：1 <3・4年 下>造形遊び：4、絵：6、立体：4、工作：5、鑑賞：1 <5・6年 上>造形遊び：2、絵：6、立体：4、工作：4、鑑賞：2 <5・6年 下>造形遊び：2、絵：6、立体：4、工作：4、鑑賞：2

4 内容の表現・表記

(1) 活動や作品の解説の仕方

- 活動や作品の写真の近くに、薄紫の枠を使って、児童の言葉で制作の意図や工夫・思いが詳しく掲載されている。
- 多様な表し方や展示方法例を写真で幾つか示してある題材がある。
- 冊子の大きさは、従来と同様レターサイズである。
- ページの最後に、題材の終末で児童に感じてほしいことを、児童のつぶやきのかたちで例示している。

(2) 配色や文字の大きさ等の工夫

- カラーユニバーサルデザインに配慮している。

5 言語活動の充実

(1) 鑑賞における言語活動の工夫

- 吹き出しや活動の解説で、鑑賞の視点が示している。
- 巻頭の「教科書美術館」で、児童の造形活動や身近なもの、作家の作品を掲載し、鑑賞活動の手立てとなる問いかけを示している。
- アートカードの活用（5・6年上）や芸術作品の鑑賞の仕方を紹介している。
- カード（アートカード以外）を使った鑑賞方法も紹介している。

意見

日本文教出版の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

日本文教出版の教科書の特徴は、活動への見通しがもてず、計画的に粘り強く表現活動に取り組めないことなどの本市児童の課題や、美術館の有無など児童の学習環境に大きな違いがある本市の実態にも対応することができるものである。

平成27年度から使用する広島市立小学校用教科書の採択について

教科〔家庭〕種目〔家庭〕

1 本市の実態や児童の状況

- 本市においても、子どもを取り巻く社会の変化や生活スタイルの変化により、家庭の機能が十分に果たされていない傾向がある。また、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識や技能を家庭で習得する環境も少なくなっている。そこで、各校において衣・食・住に関する実践的・体験的な学習活動を展開し、児童の興味・関心・意欲をより高める授業づくりを行っている。
- とりわけ「食」については、児童は、調理実習等に意欲的に取り組んでいる。しかし、家庭科で学習したことを生かして、家庭で実践する力が十分に身に付いているとは言えない。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
＜基礎・基本の定着＞	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 題材のめあてや振り返りの示し方</li> <li>○ 日本の伝統文化に関する内容の扱い</li> <li>○ 基礎的・基本的な知識・技能の習得の工夫</li> </ul>
＜学習方法の工夫＞	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 実践的・体験的な活動をとおして、実感を伴って理解するための工夫</li> <li>○ 興味・関心をもたせるための工夫</li> </ul>
＜内容の構成・配列・分量＞	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 題材や資料等の配列</li> <li>○ 生活に生かす工夫及び発展的学習に関する工夫</li> </ul>
＜内容の表現・表記＞	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 挿絵、写真等の資料の活用の工夫</li> <li>○ 配色や文字の大きさ等の工夫</li> </ul>
＜言語活動の充実＞	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 言葉や図を使って考えたり説明したりする学習活動の工夫</li> </ul>

3 各教科書の特徴及び意見

東  
書  
(東  
京  
書  
籍)

1 基礎・基本の定着

(1) 題材のめあてや振り返りの示し方

- 3つの視点から示されためあてを全ての題材の最初と小題材ごとに示している。
- 小題材ごとにめあてに対応した質問形式の振り返りがある。
- 成長や学習を振り返る「成長の記録」、「これからの私たち」がある。

(2) 日本の伝統文化に関する内容の扱い

- 「日本の伝統」で、茶や漆器などを扱った伝統的な食事や住まい方等を掲載している。(12か所)
- 広島郷土料理を取り上げている。(府中味噌・牡蠣の土手鍋)
- 食事のマナーは、学習指導要領解説に基づいて、6年の調理の題材の最後に扱っている。

(3) 基礎的・基本的な知識・技能の習得の工夫

- 知識・技能は「いつも確かめよう」(13か所)、「これだけはできるようになるう」(17か所)(チェック項目1~3)で定着を図っている。
- 実習や計画の手順を横流れのデザインで示している。図・絵・写真もあるが、言葉だけの説明もある。
- 巻末拡大版の実物大写真では、左利きや個に応じた方法を説明している。

2 学習方法の工夫

(1) 実践的・体験的な活動をとおして、実感を伴って理解するための工夫

- 実践的・体験的な活動の事例及び作品例として54事例取り上げている。
- ランチョンマットの製作で、手順と共に「リンク」として、関連ページを示している。
- 「資料 布の性質を比べる方法」では実際に比較できるような実験を1ページにまとめて掲載している。
- 炊飯では、中が見える鍋の写真と観察したことを記録する欄を並べて記載している。

(2) 興味・関心をもたせるための工夫

- 題材の最初のページに、題材の見通しがもてるように、めあてと共に写真や絵を掲載している。3年上に鮎の浦を題材にした俳句を掲載している。
- キャラクターの吹き出しが、学習のヒントとなったり、興味をもって考えるきっかけとなったりしている。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 題材や資料等の配列

- 快適な暮らしにかかわる題材を全て6年で学習するよう配列している。
- 5年・6年共に7題材ずつ合計14題材配列している。

(2) 生活に生かす工夫及び発展的学習に関する工夫

- 各題材の最後の小題材が「生活に生かそう」となっており、14か所設定している。
- 「環境マーク」を記したコーナーで、米のとぎ汁などの活用法や処理の仕方など生活への生かし方を示している。
- 学んだことを家庭で生かせるように、自由研究を学年2回ずつ設定している。

4 内容の表現・表記

(1) 挿絵・写真等の資料の活用の工夫

- 活動内容が分かるように、写真を掲載している。
- 細かな情報は絵や図を併用している。

(2) 配色や文字の大きさ等の工夫

- ふりがなの表示はやや大きく読みやすくしている。
- 重要な事項はゴシック体で表示している。
- 配色は、カラーバリアフリーに配慮している。

5 言語活動の充実

(1) 言葉や図を使って考えたり説明したりする学習活動の工夫

- 「考える」「調べる」「実習する」「話し合う」「活用する」など、言語活動を促す「Do! 活動」のコーナーを1題材に4~8か所設定している。
- 教科書に調べたことなどを書き込む欄が多く、書き方の例を示している。

意見

東京書籍の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

東京書籍の教科書の特徴は、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識や技能を家庭で習得する環境が少なくなっているという本市児童の状況に対応することができるものである。



## 1 基礎・基本の定着

### (1) 題材のめあてや振り返りの示し方

- 視点を定めためあてを全ての題材の最初に示している。
- 題材のめあてに対応したチェック式の振り返り「ふり返ろう」がある。チェックしながら自己評価ができる。
- 5年と6年の間に、「5年生の学習をふり返り、6年生の学習へ」のページがある。

### (2) 日本の伝統文化に関する内容の扱い

- 「発展」「チャレンジコーナー」などでお茶や郷土料理などを扱った伝統的な食事や住まい方等を掲載している(12か所)
- 広島郷土料理を取り上げている。(牡蠣の土手鍋)
- 食事のマナーは、学習指導要領解説で示された全ての例を5年の最初の調理の題材の中で扱っている。

### (3) 基礎的・基本的な知識・技能の習得の工夫

- 知識・技能は、「できたかな」(15か所)(チェック項目2～7)で、定着を図っている。
- 実習や計画の手順を分かりやすく横一列の帯で表記し、手順ごとに図・絵・写真を併記している。
- 巻末には、実習を成功させるためのポイントを示している。
- 家庭科に関することばを「ひとロメモ」で解説し、巻末に「家庭科でよく使われる用語一覧」を掲載している。

## 2 学習方法の工夫

### (1) 実践的・体験的な活動をとおして、実感を伴って理解するための工夫

- 実践的・体験的な活動の事例及び作品例として73事例取り上げている。
- ランチョンマットの製作で、自力で製作の実践ができるよう、手順を細部まで図とともに示している。
- 布の性質を比べる方法は、題材に応じて「調べよう」のコーナーでその都度示している。
- 炊飯では、中が見える鍋と普通の鍋の写真を比較して記載している。

### (2) 興味・関心をもたせるための工夫

- 題材の最初のページに、題材の見通しが持てるように、めあてと共に写真を掲載している。
- キャラクターの吹き出しが、学習のヒントとなったり、興味を持って考えるきっかけとなったりしている。

## 3 内容の構成・配列・分量

### (1) 題材や資料等の配列

- 快適な暮らしにかかわる題材が5年と6年で学習するよう配列している。
- 5年10題材、6年7題材合計17題材で、スモールステップで学習できるように配列している。

### (2) 生活に生かす工夫及び発展的学習に関する工夫

- 各題材の最後に生活に生かすことを考えさせる「生かそう」のコーナーを16か所設定している。
- 生活に生かすことを意識させるために6年のテーマを「くふうして生活に生かそう」と設定している。
- 「環境マーク」を記したコーナーで、環境に配慮した取組を促したり、「発展」マークを併用したりして発展的な学習ができるようにしている。
- 学んだことを家庭で生かせるように「家庭で実践しようチャレンジコーナー」を5年で3回、6年で2回設定している。

## 4 内容の表現・表記

### (1) 挿絵・写真等の資料の活用の工夫

- 活動内容が分かるように、写真を数多く掲載している。
- 細かな情報は絵や図を併用している。

### (2) 配色や文字の大きさ等の工夫

- 本文の文字が全体的に濃い。ふりがなは、やや薄い。
- 重要な事項はゴシック体で表示している。
- 配色は、カラーバリエーションに配慮している。

## 5 言語活動の充実

### (1) 言葉や図を使って考えたり説明したりする学習活動の工夫

- 「考えよう」「調べよう」「やってみよう」「話し合おう」など、言語活動を促すコーナーを1題材に1～3か所設定している。設定のない題材もある。
- 教科書に調べたことなどを書き込む欄が多く、書き方の例を多く示している。

## 意見

開隆堂の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

開隆堂の教科書の特徴は、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識や技能を家庭で習得する環境が少なくなっているという本市の実態や、学習したことを生かして、家庭で実践する力に課題がある本市児童の状況に対応することができるものである。

平成27年度から使用する広島市立小学校用教科書の採択について

教科 [ 体 育 ] 種目 [ 保 健 ]

1 本市の実態や児童の状況

- 本市では、全小学校において、早寝早起きや朝食の摂取などを促すため、「全校一斉生活リズムカレンダー実施週間」を設定するとともに、学校給食の残食減少に向けた取組を行い、児童の基本的な生活習慣の定着を図る取組を推進している。また、各学校において、保健の授業で学習したことを児童が実生活に結び付けられるような授業づくりを推進している。
- 平成25年度の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」によると、本市の児童の生活習慣の実態として、運動の実施頻度や朝食の摂取状況は概ね良好な状況であるが、睡眠時間に課題がみられる。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
<基礎・基本の定着>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元の目標の示し方</li> <li>○ 知識・理解の定着を図る工夫</li> </ul>
<学習方法の工夫>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 興味・関心を高めるための工夫</li> <li>○ 実生活・実社会に関連付けられるような記述や内容の工夫</li> </ul>
<内容の構成・配列・分量>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元の構成や配列、分量</li> <li>○ 補充的な学習や発展的な学習に関する内容の記述</li> </ul>
<内容の表現・表記>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 記述と関連付けられた挿絵・写真・グラフ等の活用</li> <li>○ 配色や文字の大きさ等の工夫</li> </ul>
<言語活動の充実>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の考えをまとめて、書いたり話したりする活動の充実</li> </ul>

### 3 各教科書の特徴及び意見

東  
書  
(東  
京  
書  
籍)

#### 1 基礎・基本の定着

##### (1) 単元の目標の示し方

- 各単元の扉に、写真とともに学習内容を示している。
- 各小単元の冒頭に、質問形式で学習課題を示している。

##### (2) 知識・理解の定着を図る工夫

- 各単元末に、これまでの学習を振り返り、知識・理解の定着を図る場面を設定している。
- 補足説明は、「まめちしき」のコーナーで行っている。
- 学習のまとめは、小単元の終わりの部分に示している。

#### 2 学習方法の工夫

##### (1) 興味・関心を高めるための工夫

- 子どもキャラクターを用いて、課題解決へのヒントを与えたり、説明をしったりしている。
- 3年の学習のはじめに、子どものキャラクターを探すコーナーを掲載している。

##### (2) 実生活・実社会に関連付けられるような記述や内容の工夫

- 3年の「けんこうによい1日の生活」では、食事、運動、休養・睡眠について2ページに渡って掲載している。
- 5・6年の「犯罪被害の防止」「地域の様々な保健活動の取組」に関するものを6例掲載している。
- 各単元末に、自分の生活の課題を見付けたり、これからの自分の生活に生かすことを考えたりする場面を設定している。

#### 3 内容の構成・配列・分量

##### (1) 単元の構成や配列、分量

- 1単位時間の学習内容を、2～4ページ(2ページ単位)で構成している。
- 3・4年は8小単元、29ページ、5・6年は17小単元、49ページで構成している。

##### (2) 補充的な学習や発展的な学習に関する内容の記述

- 3、5、6年において、学習内容に関連したホームページを紹介している。
- 4年の発展的な内容である「生命」について、挿絵と写真を用いて2分の1ページに渡って掲載している。

#### 4 内容の表現・表記

##### (1) 記述と関連付けられた挿絵・写真・グラフ等の活用

- 3・4年では、記述と関連付けられた挿絵・写真・グラフ等の資料を36点掲載している。

##### (2) 配色や文字の大きさ等の工夫

- B5版よりやや大きい紙面で、淡い色を多く用いている。

#### 5 言語活動の充実

##### (1) 自分の考えをまとめて、書いたり話したりする活動の充実

- 5・6年では、自分の考えをまとめたり、話し合いのために記入したりする活動が26カ所ある。

1 基礎・基本の定着

(1) 単元の目標の示し方

- 各単元の扉に、挿絵とともに学習内容を示している。
- 各小単元の冒頭に、質問形式で学習課題を示している。

(2) 知識・理解の定着を図る工夫

- 各単元末に、これまでの学習を振り返り、知識・理解の定着を図る場面を設定している。
- 補足説明は、ページ下部の「ミニちしき」のコーナーと、専門家キャラクターを用いて行っている。
- 学習のまとめは、小単元の終わりの部分に示している。

2 学習方法の工夫

(1) 興味・関心を高めるための工夫

- にわとりのキャラクターと、子どもキャラクターを用いて、課題解決へのヒントを与えたり、説明をしたりしている。
- 各単元の扉に「キャラクター探し」や「間違いさがし」を掲載している。
- 自分の成長の仕方や、望ましい生活習慣についての学習では、シールを使用する学習活動を設定している。
- 広島市の食育推進スローガンと、食育推進キャラクターを掲載している。

(2) 実生活・実社会に関連付けられるような記述や内容の工夫

- 3年の「けんこうな1日の生活のしかた」では、食事、運動、休養・睡眠について4ページに渡って掲載している。
- 5・6年の「犯罪被害の防止」「地域の様々な保健活動の取組」に関するものを6例掲載している。
- 5年の「不安やなやみをもったとき」の学習では、「体ほぐしの運動」の行い方について1ページに渡って掲載している。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元の構成や配列、分量

- 1単位時間の学習内容を、2～4ページ（2ページ単位）で構成している。
- 3・4年は8小単元、29ページ、5・6年は16小単元、49ページで構成している。

(2) 補充的な学習や発展的な学習に関する内容の記述

- 6年において、学習内容に関連したホームページを紹介している。
- 4年の発展的な内容である「生命」について、挿絵と写真を用いて1ページに渡って掲載している。

4 内容の表現・表記

(1) 記述と関連付けられた挿絵・写真・グラフ等の活用

- 3・4年では、記述と関連付けられた挿絵・写真・グラフ等の資料を37点掲載している。

(2) 配色や文字の大きさ等の工夫

- B5版の紙面で、淡い色を多く用いている。

5 言語活動の充実

(1) 自分の考えをまとめて、書いたり話したりする活動の充実

- 5・6年では、自分の考えをまとめたり、話し合いのために記入したりする活動が30カ所ある。

意見

大日本図書の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

大日本図書の教科書の特徴は、児童が自分の生活習慣に興味・関心をもって学習を進めることができるものであり、児童の基本的な生活習慣の定着を図る取組及び、学習したことを実生活に結び付けられるような授業づくりを推進している本市の実態や、睡眠時間に課題がある本市児童の状況に対応することができるものである。

## 1 基礎・基本の定着

### (1) 単元の目標の示し方

- 各単元の扉に、挿絵とともに学習内容を示している。
- 各小単元の冒頭に、質問形式で学習課題を示している。

### (2) 知識・理解の定着を図る工夫

- 補足説明は、ページ下部の「つぶやきくん」のコーナーと、専門家キャラクターを用いて行っている。
- 学習のまとめは、小単元の終わりの部分に、黄色の枠内に示している。

## 2 学習方法の工夫

### (1) 興味・関心を高めるための工夫

- 子どもキャラクターを用いて、課題解決へのヒントを与えたり、説明をしたりしている。
- 「アスリートからのメッセージ」のコーナーで、有名スポーツ選手から学習内容に関することやアドバイスを掲載している。

### (2) 実生活・実社会に関連付けられるような記述や内容の工夫

- 3年の「1日の生活のリズム」では、食事、運動、休養・睡眠について2ページに渡って掲載している。
- 5・6年の「犯罪被害の防止」「地域の様々な保健活動の取組」に関するものを3例掲載している。

## 3 内容の構成・配列・分量

### (1) 単元の構成や配列、分量

- 1単位時間の学習内容を、2～4ページで構成している。
- 3・4年は8小単元、25ページ、5・6年は16小単元、45ページで構成している。

### (2) 補充的な学習や発展的な学習に関する内容の記述

- 4～6年において、学習内容に関連したホームページを紹介している。
- 4年の発展的な内容である「生命」について、写真を用いて児童の詩（へその緒について）を1ページに渡って掲載している。

## 4 内容の表現・表記

### (1) 記述と関連付けられた挿絵・写真・グラフ等の活用

- 3・4年では、記述と関連付けられた挿絵・写真・グラフ等の資料を3.5点掲載している。

### (2) 配色や文字の大きさ等の工夫

- A4版の紙面で、淡い色を多く用いている。
- 重要事項を太字で示している。

## 5 言語活動の充実

### (1) 自分の考えをまとめて、書いたり話したりする活動の充実

- 5・6年では、自分の考えをまとめたり、話し合いのために記入したりする活動が31カ所ある。

## 1 基礎・基本の定着

### (1) 単元の目標の示し方

- 各単元の冒頭に、挿絵や写真とともに学習内容を示している。
- 各小単元の冒頭に、学習課題を示している。

### (2) 知識・理解の定着を図る工夫

- 補足説明は、ページ下部の「豆電球」のマークのコーナーと、専門家キャラクターを用いて行っている。
- 学習のまとめは、小単元の終わりの部分に示している。

## 2 学習方法の工夫

### (1) 興味・関心を高めるための工夫

- 子どもキャラクターを用いて、課題解決へのヒントを与えたり、説明をしたりしている。
- 挿絵・写真・グラフ等を多く用いた紙面構成にしている。

### (2) 実生活・実社会に関連付けられるような記述や内容の工夫

- 3年の「けんこうな1日の生活」では、食事、運動、休養・睡眠について2ページに渡って掲載している。
- 5・6年の「犯罪被害の防止」「地域の様々な保健活動の取組」に関するものを6例掲載している。

## 3 内容の構成・配列・分量

### (1) 単元の構成や配列、分量

- 1単位時間の学習内容を、2～4ページで構成している。
- 3・4年は7小単元、29ページ、5・6年は15小単元、49ページで構成している。

### (2) 補充的な学習や発展的な学習に関する内容の記述

- 3～6年において、学習内容に関連したホームページを紹介している。
- 4年の発展的な内容である「生命」について、挿絵と写真を用いて2分の1ページに渡って掲載している。

## 4 内容の表現・表記

### (1) 記述と関連付けられた挿絵・写真・グラフ等の活用

- 3年の「けんこうな生活」の単元では、記述と関連付けられた挿絵・写真・グラフ等の資料を33点掲載している。

### (2) 配色や文字の大きさ等の工夫

- B5版の紙面で、濃い色も用いている。
- 重要事項を太字や色分けして示している。

## 5 言語活動の充実

### (1) 自分の考えをまとめて、書いたり話したりする活動の充実

- 5・6年では、自分の考えをまとめたり、話し合いのために記入したりする活動が29カ所ある。

1 基礎・基本の定着

(1) 単元の目標の示し方

- 各単元の扉に、写真とともに学習内容を示している。
- 各小単元の冒頭に、質問形式で学習課題を示している。

(2) 知識・理解の定着を図る工夫

- 各単元末に、これまでの学習を振り返り、知識・理解の定着を図る場面を設定している。
- 補足説明は、ページ下部の「ペン立て」のマークのコーナーと、専門家キャラクターを用いて行っている。
- 学習のまとめは、小単元の終わりの部分に示している。

2 学習方法の工夫

(1) 興味・関心を高めるための工夫

- 子どもキャラクターを用いて、課題解決へのヒントを与えたり、説明をしたりしている。
- 「かがくの目」のコーナーで、実験やウイルスの写真などの科学的な資料を多く掲載している。

(2) 実生活・実社会に関連付けられるような記述や内容の工夫

- 3年の「1日の生活のしかた」では、食事、運動、休養・睡眠について4ページ（うち2ページは学校の実態に応じて活用する部分）に渡って掲載している。
- 5・6年の「犯罪被害の防止」「地域の様々な保健活動の取組」に関するものを4例掲載している。
- 各単元末に、自分の生活の課題を見付けたり、これからの自分の生活に生かすことを考えたりする場面を設定している。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元の構成や配列、分量

- 1単位時間の学習内容を、2ページで構成している。
- 3・4年は8小単元、33ページ、5・6年は15小単元、53ページで構成している。

(2) 補充的な学習や発展的な学習に関する内容の記述

- 4～6年において、学習内容に関連したホームページを紹介している。
- 4年の発展的な内容である「生命」について、挿絵と写真を用いて3分の1ページに渡って掲載している。

4 内容の表現・表記

(1) 記述と関連付けられた挿絵・写真・グラフ等の活用

- 3・4年では、記述と関連付けられた挿絵・写真・グラフ等の資料を35点掲載している。

(2) 配色や文字の大きさ等の工夫

- A4版の紙面で、濃い色も用いている。

5 言語活動の充実

(1) 自分の考えをまとめて、書いたり話したりする活動の充実

- 5・6年では、自分の考えをまとめたり、話し合いのために記入したりする活動が27カ所ある。

意見

学研の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

学研の教科書の特徴は、児童の基本的な生活習慣の定着を図る取組及び、学習したことを実生活に結び付けられるような授業づくりを推進している本市の実態や、睡眠時間に課題がある本市児童の状況に対応することができるものである。